

新型コロナウイルスの抗体陽性率0.6%と、ワクチン開発に手ごたえが

今月の15日に新型コロナウイルスの抗体を持っているかを東京都で検査した結果が発表された。500人の検査をして陽性率0.6%、3人が陽性という結果だ。同じく東北では0.4%、2人が陽性であったということだ。諸外国ではこの抗体検査で比較的高い値となっていたので、実感としては驚くほど低い値であると感じた。

新型コロナ抗体、東京都の陽性率は0.6% 1万人規模の抗体検査を実施へ

Science Portal 2020年5月15日

加藤勝信厚生労働相は15日午前の閣議後記者会見で、東京都と東北地方で行っていた試験的な新型コロナウイルス感染症

(COVID-19)抗体検査の結果、東京都の陽性率は500検体で0.6パーセント、東北6県は500検体で0.4パーセントだったと発表した。また、来月以降、複数の自治体を対象に1万人規模で抗体検査を実施する方針であることを明らかにした。

本日の神戸新聞で、兵庫県下の2000人の抗体検査結果が報じられた。医療関係者509人はすべて陰性、罹患した人10人はすべて陽性、との結果であるので、兵庫県も東京都や東北と同じく低い感染率であると考えられる。

兵庫県内での感染者数(感染が確認された人数)は現在699人、兵庫県の人口が546万人であるから、感染者の人口当たりの割合は1万人当たり1.3人である、風説では、感染しても症状と

神戸新聞 2020.5.26

防げ 医療崩壊

新型コロナ

神戸新聞 2020.5.26

新型コロナウイルスで感染歴が分かるという、既に検査を終えた県立加古川医療センター(加古川市)では、医療従事者509人全てが陰性で感染者は1人いなかった。同大学は「適切な予防をすれば患者からの感染は防げる」としている。

神戸大学によると、医療従事者の感染の広がりを調べるため、5月上旬に加古川医療センターで抗体検査を実施。医師77人や看護師310人など509人(男性88人、女性421人)の全てが陰性だった。一方、同センターに入院したコロナ患者のうち10人の検査では全員が陽性となり感染が確認できたという。

検査は北播磨総合医療センター(小野市)でも行われ、今後、県立姫路循環器病センター(姫路市)でも抗体検査を巡っては、神戸市立医療センター中央市民病院が2日、外来患者千

加古川医療センター分は陰性

神大と県
2000人の抗体検査

人の検査で3.3%が陽性だったと発表。25日に会見した神戸大学感染症センター長の森康子教授は「予想外の良い結果。加古川医療センターの職員も数%は陽性が出る」と予想していた。市中での感染は思ったより広がっていない」と話す。(霍見真一郎)

して現れていない人の数は、発症した人の10倍、いや100倍は居るのでは、と当てもののような数値が飛び交っているが、かりに10倍としたときに、感染数は13人/1万人となる。2000人に抗体検査を施せば確率的に2~3人が陽性となる。20倍であったとすると5人が陽性になる。

抗体検査にも誤判定の可能性が含まれるそうであるから、0.5%という数字そのものをどこまで信用してよいかわからないが、今までの結果からはまだ抗原を持っている人の数は少ないようである。第二波、第三波の感染拡大を恐れなくてはならない理由がここにある。

そうすると、頼みの綱はやはりワクチンということになる。本日の日本経済新聞にワクチンに関する記事が2つ掲載されていた。

日本経済新聞 2020.5.26

国産ワクチン7月治験

アンジェス、年内実用化狙う

大阪大学発のバイオ企業アンジェスは新型コロナウイルスワクチンの臨床試験（治験）を7月から始める。動物実験の成果などを受けて厚生労働省や医療機関などと治験前倒しについて協議して

大正大学発のバイオ企業アンジェスは新型コロナウイルスワクチンの臨床試験（治験）を7月から始める。動物実験の成果などを受けて厚生労働省や医療機関などと治験前倒しについて協議して

アンジェスは25日、開発中のワクチンの投与によって抗体ができることを動物実験で確認したと

発表した。治験は当初は9月開始を予定。その後8月への前倒しを検討していたが早期実施に踏み切る。大阪大学医学部付属病院と大阪市立大学医学部付属病院で数十人にも結果が出る見通し。アンジェスには国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が20億円を研究費として投じることが決まっている。2020年度第2次補正予算案でもコロナワクチン開発や生産支援が盛り込まれる見通しでアンジェスも対象になりそう。

日本経済新聞 2020.5.26

中国カンシノのワクチン 「ヒトで効果確認」 対コロナ

【大連＝渡辺伸】中国の製薬スタートアップ、康希諾生物（カンシノ）はバイオロジクスは25日、新型コロナウイルス用に開発中のワクチンで、効果を確認したと発表した。第1臨床試験を完了した段階で、ヒトに対する効果が確認されたのは世界で初めて。ワクチンでは米中が激しい開発競争を展開しており、中国勢は政府の支援でいち早い実用化をめざす。

同社の広報担当者は日本経済新聞の取材に「ヒトを対象とした効果の確認は世界で初めてだ」と説明した。英医学誌ランセットに研究成果をまとめた論文を発表した。

世界保健機関（WHO）によると、新型コロナウイルスは22日時点で世界で10種類が臨床試験（治験）の段階にある。そのうち5種類を中国勢が占めカンシノはその一社だ。米スタートアップのモデルナは18日、第1臨床試験の中間結果として「前向きな結果が得られた」と発表した。また試験は完了していない。カンシノが3月16、27日、男女108人にワクチンを接種したところ、接種から14日後にウイルスを中和できる抗体などが体内で増加した。接種から7日後には約5割の参加者で発熱や疲労、頭痛などの副作用が起きたが、接種28日後では重い

症状は見られなかった。同ワクチンは中国人民解放軍の軍事医学研究院と共同研究しており、今は第2臨床試験を進行中だ。第3臨床試験ではカナダ国立研究機構と共同で実施する計画。カナダは新型コロナウイルスの感染者が多く、研究地として有効と判断した。